

武蔵野美術大学教授退任記念

伊藤誠——夢を見るための機械

Makoto Ito: Sculptures

2025.9.8 | 月 | — 10.26 | 日 |

武蔵野美術大学 美術館

展示室2・4・5 / アトリウム1

11:00-19:00
(土・日曜日、祝日、10月24日[金]は10:00-17:00)
休館日 | 水曜日 入館料 | 無料

主催 | 武蔵野美術大学 美術館・図書館
協力 | 武蔵野美術大学 彫刻学科研究室
住所 | 〒187-8505 東京都小平市小川町1-736
電話番号 | 042-342-6003
<https://mauml.musabi.ac.jp/museum/>

〔関連イベント〕

対談 1
〔日時〕
2025年9月27日[土]
15:30-17:00

〔会場〕
美術館ホール

〔出演〕
藤井匡 (東京造形大学教授)
伊藤誠

対談 2
〔日時〕
2025年10月13日[月・祝]
16:40-18:00

〔会場〕
美術館ホール

〔出演〕
赤塚祐二 (武蔵野美術大学 造形学部油絵学科教授)
伊藤誠

〔同時開催〕

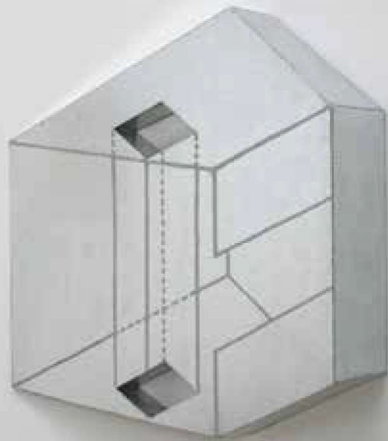
別の山に登る——赤塚祐二



身の回りにあるさまざまな素材を取り入れながら、軽やかで意外性のある形態により独自の表現を追求し続ける彫刻家・伊藤誠 (1955-)。一見するとどこか馴染みのある対象を想起させる立体作品は、しかしやがてその既視感を裏切り、名付けえぬ知らないかたちとして私たちの前に立ち現れます。伊藤が一貫して取り組むのは、このように鑑賞者の視線やものを見る意識と関わることによって作用し、新たな意味を喚起するかたち——伊藤自身の言葉によれば、「夢を見るための機械」としての彫刻です。

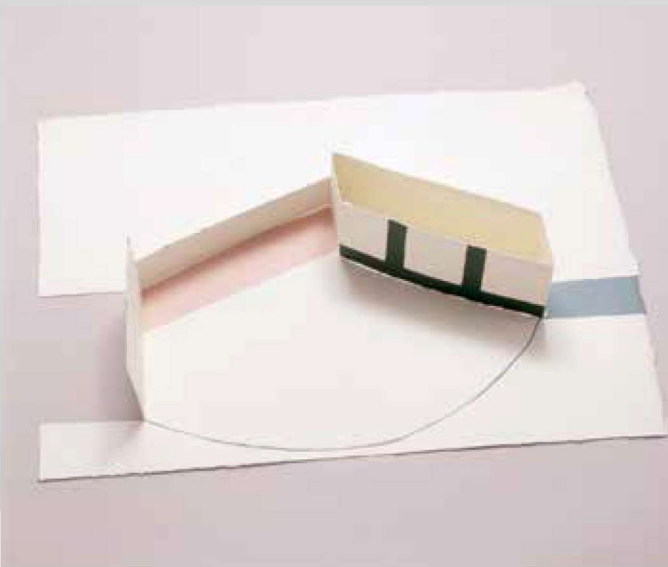
1980年代初頭に活動を開始した伊藤は、素材そのものの在り方や物質性を主題化した先行する芸術動向を批判的に受け止め、彫刻がもたらす経験と認識について問い続けてきました。近年は、鑑賞者が自らの身体に装着する作品シリーズの発表や執筆活動など、形式や媒体を拡張しながら制作を展開していますが、そうした取り組みにもかかわらず、その制作に対する固有の意識が通底しているといえるでしょう。

本展では、初期作から最新作まで、素材やサイズが様々な異なる作品約60点を展覧し、伊藤の半世紀近くにおよぶ実践を包括的にご紹介します。多彩な作品群を通して、その思索と制作の軌跡を辿る機会となれば幸いです。



M&L

武蔵野美術大学 美術館・図書館



武蔵野美術大学 美術館・図書館

〒187-8505 東京都小平市小川町1-736

電話番号 | 042-342-6003

webサイト | <https://mauml.musabi.ac.jp/museum/>

☎ ☎ @mauml

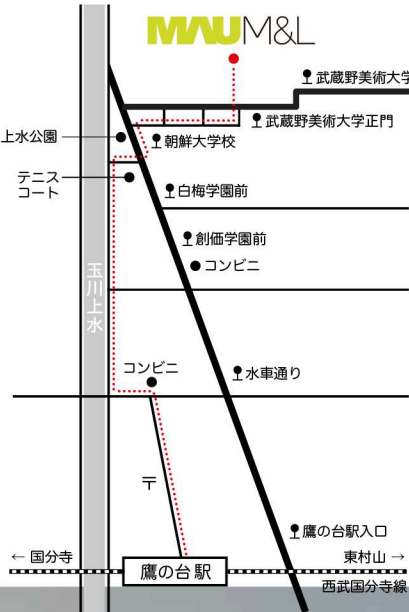
交通アクセス

・西武国分寺線「鷹の台」駅下車、徒歩18分

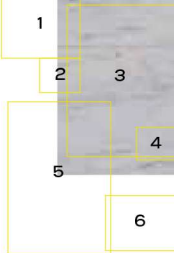
・JR中央線「国分寺」駅北口4番停留所より
西武バス「武蔵野美術大学」行または「小平営業所」行に乗り、
「武蔵野美術大学正門」停留所下車(バス所要時間:約25分)

・JR中央線「立川」駅北口5番停留所より
立川バス「武蔵野美術大学」行に乗り、
「武蔵野美術大学」停留所下車(バス所要時間:約25分)

※お車でのご来館はお控えください



伊藤誠 Makoto Ito
彫刻家。1955年愛知県生まれ。1983年武蔵野美術大学大学院造形研究科彫刻コース修了。1999年ACC奨学金により渡米。1996-97年文化庁在外研修員としてワイルランドに滞在。1999年武蔵野美術大学着任。2005年タカシマヤ美術賞受賞。
1980年代初頭より活動を開始し以来多数の個展を開催。主なグループ展に、1992年「現代美術への視点 形象のはざまに」(東京国立近代美術館、国立国際美術館、1995年「やわらかく重く 現代美術の場と空間」(埼玉県立近代美術館)、「視ることのあり方」1996 絵画 彫刻の現在 (森美術館、2000年「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」2000(新潟県)、2001-03年「DOMINI・明日」2003-07 百年あふく、百年あふく「国立新美術館、2008年「瀬戸内国際芸術祭」香川県など。著書に『かたがのつくりかた』(武蔵野美術大学出版局、2008年)など。主な作品収蔵先に愛知県美術館、宇都宮美術館、千葉市美術館、東京国立近代美術館など。



- 1 | (Dinosaur) (部分) 2017年 108×60×3cm ミクストメディア 作家蔵
- 2 | (両耳の位置) 2023年 80×90×22cm 亜鉛鉄板・木・常温亜鉛メッキ塗料 作家蔵 撮影:星野健太
- 3 | (Boat-S-13) 2013年 30×30×70cm ミクストメディア 作家蔵 撮影:加藤健
- 4 | (品一SHNA III) 1999年 42.5×60×10cm シルクスクリーン 制作:原重工房エディション・ワークス
- 5 | 「オムニスカルプチャーズ——彫刻となる場所」会場風景 2021年、武蔵野美術大学 美術館・図書館 撮影:関野圭
- 6 | (untitled) 1988/2022年 110×240×90cm FRP・紙 村松画廊コレクション蔵 撮影:加藤健

Makoto Ito: Sculptures